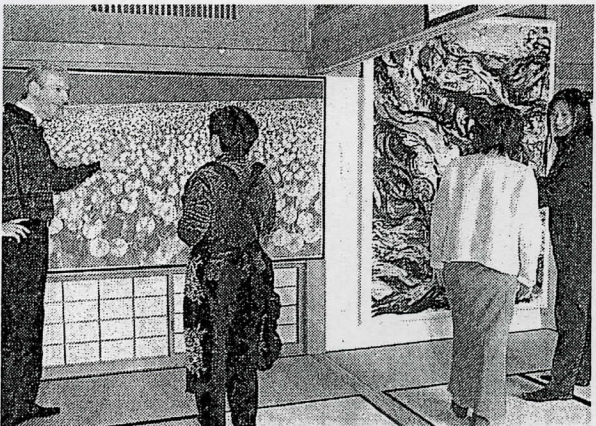


民家でベルギー美術展 士

パトリック・ジェロラさん 小品、大作50点 富

ベルギーのアーティストさん^三の作品を中心に、パトリック・ジェロラさん^二の近代美術展が富士市伝法、会社員伊東張雄さん^一方で始まった。入場無料。十五日まで。



和室で開かれているベルギー近代美術展
—富士市伝法

パトリックさんは、つぐば万博のフランス・パピリオンのデコレーションやミラノ・スカラ座の舞台美術を手掛けるなど空間プロデューサーとして活躍する一方で、絵画を描く。

美術展に出品されているのは、2号の小品から300号の大作まで約五十点。抽象、具象の油絵、ペン画、フレスコ画とあり、畳敷きの和室に洋画とちよっぴり変わった展示会となっている。午前十時から午後六時まで。

術を手掛けた。

八三年に来日し、つぐば博のフランスパピリオンのデコレーションやパトリックのデザイン、デイスプレーなどで幅広く活動。また、東京都内や日本各地で展覧会を開いている。

日本家屋にヨーロッパの絵画を展示する—という試みは、一昨年、秋田県の民家でも実施し、好評を得ている。今回はパトリックさんと親しい伊東張雄さん・利枝さん夫妻

の協力を得て、小品から壁一面を埋める大作まで幅広い絵画を和室に展示し、独特の〃和洋折衷〃のハーモニーで訪れる人を楽しませている。

パトリックさんはこのうち、縦九十^三、横三百五十^三の風景画(油彩)をはじめ、花の丘をイメ

ージしたフレスコ画など十八点を出品。

「絵画はもともと部屋のインテリアの一部として親しまれてきた。美術館やギャラリーに足を運ばなくても、身近な場所でも気軽に楽しめれば—と思、展覧会を企画した。空間を使った和と洋のマ